

冷泉荘 これまでの 歩み 2006-2022



第4回 福岡アジア美術トリエンナーレ2009 耐震改修工事(2011年1月~3月)

3年限定の実験的な取り組みと並行して、建物のコンクリート強度試験などハード面の調査を実施。結果は良好で、プロジェクト継続を決定。詩の公募展「冷泉ことば空間」、アンティーク雑貨や古道具などが各部屋に並ぶ「古いもの市」、アジア美術トリエンナーレ第二会場など建物1棟を使った試みを行い、古い建物のもつ魅力を実感しながら第二期へ移行します。

まちに開かれ、愛される場をめざして

2010年、築50年をこえた冷泉荘は、古いもの・古いことを大切にする想いを強め、歴史の深い博多のまちに開かれ、愛される建物となるよう「リノベーションミュージアム冷泉荘」として本格始動。2011年の耐震改修工事を経て、「持続的」で「環境的」な建物へ。文化人・芸術家など多種類のクリエイティブな方々が集い、イベントも各部屋・レンタルスペースで年間250日以上開催されています。

博多どんたくの源流とされる博多松囃子・稚児流が冷泉荘にも稚児舞を披露にいらしていただき、第25回福岡市都市景観賞の活動部門受賞など、冷泉荘の活動が福岡・博多に認められ、まちに開かれた建物となっております。ガイドブックやマップなど観光メディアにも掲載していただき、「まちの文化施設」や「知のサロン」として多くの方に親しんでいただいております。

まち

ユニークで親しみある場

冷泉荘の魅力はなんといってもバラエティに富んだユニークな入居者のみなさん。日本画家、博多人形師、写真スタジオ、旅行会社、設計事務所、靴作り教室、こどもアートアトリエ、色彩心理、人工知能やセンサーを活用した製品開発、企画制作、ヨガ&ピラティス、ペット服製作アトリエ、語学教室、飲食店、まちづくり、コミュニティセンターなど、業種も多彩です。

そしてイベントや観光、レンタルスペース利用などで集まるまちの方々。古い建物もつオープンで親しみがある雰囲気惹かれて、年間2万人以上の方が気軽に訪れています。年に1~2回開催のオープンアパートイベント「れいぜん荘ピクニック」をはじめ、冷泉荘の入居者さんと親くなるきっかけもたくさんあります。直接だったり、管理人を通じてだったり、お互いにつながりたいときにつながることができるゆるやかな場が形成されています。

ひと



稚児舞 冷泉荘屋上夕涼み会



九州DIYリノベWEEK2021(オンラインイベント) れいぜん荘ピクニック(管理人とめぐるツアー)

さまざまな“最先端”が集まる場

各部屋やレンタルスペースでは、下記のような様々な出来事が日々おこっており、文化発信の拠点となっています。

文化

展示 クロネコDay's BLACK CAT STREET 5 [water]	落語 月光亭落語会	読書会 もっと!読み方がわかる文学教室
展示販売 和装事変	屋上稲作 たのしネ	演劇 THE GO AND MO'S「謙造の拳」
おまつり 古代フェス2019	大学公開講座 九州大学リベラルアーツ講座	映画 福岡インディペンデント映画祭
音楽 「アトリエに響く音」 榎木栄一郎 & zerokichi LIVE @アトリエ種音	舞踏・ダンス 水上初佳ダンスソロ公演 「Colorful~私を作る世界へ~」	現代音楽 第三回宮崎千年現代音楽祭 高橋アキピアノリサイタル ジョン・ケージの「ソナタとインターリュード」

老朽アパートから“ミュージアム”へ

1958年に高級アパートとして建てられるも、時代の変遷とともに老朽化、スラム寸前のアパートだった冷泉荘。このままではと一念発起し、2006年、東京・青山の同潤会アパートをモデルにアーティストやクリエイターが集まる3年限定のチャレンジの場として再生。巨大流しそうめん大会や、七夕まつり、ワインとともに音楽や演劇を楽しむ周年パーティーなどさまざまなイベントや交流が生まれ、建物に活気が満ち溢れていきました。



スラム化寸前の冷泉荘 巨大流しそうめん大会



月刊冷泉荘 祝150号